



「もやもや」こそ探究の始まり ―教員自身が問いを立てる研修へ―

令和6年度より始まった「探究的な学び」研修は、教員自身が“問いを立てながら学ぶ”ことを目的としています。この研修は全2回構成で行われ、第2回目となる今回は、互いの実践や考えを持ち寄り、語り合い、揺さぶられ、考え続ける時間となりました。

研修参加者は、こども園での探究的に学ぶ子どもの姿の報告をはじめ、会場中央に置かれた探究に関する関連書籍、他のグループが作成中の模造紙、クラウド上で共有された事前課題、指導主事との対話など、すべてが「考えを深める資料」として探究的に取り組みました。

協議の中では、複数のグループから「なんか、もやもやしています」といった言葉が自然に出ていました。その“もやもや”こそが問いを立て、思考を深めていくための大切な原動力と考えています。教員自身がこの学びを体感することで、子どもの学びと教師の学びは相似形であることを実感する場となったのではないのでしょうか。

「もやもや」は迷いではなく、学びの入口です。探究とは、知識を得ることではなく、問いを立て、新たな気づきから、情報収集することから始まります。今回の研修は、教員自身がその感覚を実感する時間となりました。これからも「問い」を大切にしながら、探究的な学びをさらに広げることができる研修を実施していきます。



研修参加者の振り返りから

- ・「探究について深く考える機会を持つことができ、授業や学校の取組に活かしていきたい。」
- ・「探究って結局何？と一言では表せないが、教師も生徒も試行錯誤しながら進める必要があると感じた。」
- ・「不安やもやもやは生徒の気持ちと同じだと気づき、探究の楽しさを伝えていきたいと思った。」

スポーツの秋!!

教育支援センター（ふれあいルーム）

10月10日（金）、ふれあいルームでスポーツ会を実施しました。この日のために準備や練習に取り組んできたルーム生たちは、教職員や保護者に応援してもらう中、仲間と協力しながら競技に参加しました。拍手や仲間を真剣に応援する声、そして笑い声があふれる温かい雰囲気の中で競技が進みました。

大縄跳びで跳べた子に「うまく跳べたやん!」と声をかけたり、「絶対勝とうな!」とチームを盛り上げたりなど、生き生きとした子どもたちの表情が見られ、子どもたちは勝った喜びや負けた悔しさを感じるとともに、仲間と一緒に作りあげる良さを経験できる機会となりました。

参観された教職員や保護者からは「子どもたちの笑顔でこちらも楽しくなりました!」「ポジティブな声かけや応援をしている姿から、普段からの柔らかい雰囲気を感じられました。」「普段学校ではなかなか一緒に体を動かすことは少ないけど、今日こうして一緒に玉入れとかできて楽しかったです!」といった声が寄せられました。子どもたちは「人とのコミュニケーションを多くとれた気がする。」「全員で協力しながらできて良かった。」「みんなと仲良くなれた気がする。」などとスポーツ会を振り返っていました。

スローガン通り「勝っても負けても全力笑顔!!」なスポーツ会となりました。

